

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
<ul style="list-style-type: none"> ● 前項同様，理解できない要因の一つとして内閣府図上演習への参加率が低いことが考えられる。 ● 実動訓練と異なる時間軸で並行して実施することにメリットはなく，混乱を招くとの指摘が見られる。 ● 内閣府図上演習未受講者から，詳細シナリオの提示を望む声が見られた。ブラインド訓練であり，参加には一定の知識が必要であることを理解し，事前に身に着けて頂く必要がある。 ● 理解できなかった理由として，付与信息がわかりにくかったとの意見が見られる。また，前半が過密すぎ，後半が少ないとの指摘もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前項と同様。 ・ 訓練目的に応じて日程，時程を設定することにより，参加者の目的意識と訓練効果を高めることが期待できる。具体的には，内閣府図上演習の後でかつ，実動訓練の前に県としての図上訓練や班別課題演習の実施，実施方針案作成など，目的を絞った要素演習の実施，実動訓練時は，目的を全体の流れと手順の確認に絞り，シナリオ開示型で実施することなどが考えられる。 ・ 同上 ・ 初心者も含めて，より理解しやすい付与信息を検討する。具体的には，発信元，発信先，具体的な指示等の内容を明確にすること，略語を使用する場合は事前説明か事前配布資料で解説しておくことなどとともに，全体の時間配分を見直すことが考えられる。

③ 機能班等の役割分担等の理解度に対する評価

アンケート結果から，所属機能班の役割理解度は80%で，おおむね理解が得られている。一方，他機能班との連携，OFC，ERC，自治体の役割分担等についての理解度は，それぞれ65%，71%とやや低い。3項目とも，理解できなかった理由としては，活動の機会がなかったことが最も多かった。

■良好事例と助長策■

良好事例	助長策
<ul style="list-style-type: none"> ○ 理解できた要因として，事前説明や資料が役立ったとの意見が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より短時間で理解できるよう，要点と実例を主体とした資料や説明とする。

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
● 理解できなかったとの回答に対する理由として、活動機会が少ないとの回答が多かった。	・ 組織間の連携や調整を促す付与を増やす。例としては、担当が複数の組織に跨がる事案や、マニュアル等で明記されていない役割分担の調整、要員が多い班から少ない班への支援要員調整などが考えられる。

④ 避難等の実施方針案作成手順の理解度に対する評価

アンケート結果から、避難や一時移転の実施方針案作成手順に対する理解度は53%と低い結果となった。活動の中心となる住民安全班と県現地本部の結果が、それぞれ47%、45%といずれも低い。また、内閣府図上演習の受講歴との関連を見ると、参加ありが65%、参加なしが48%で、事前の研修の効果がある程度確認できる。

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
● 実施方針案作成手順について、活動の中心となる住民安全班員と県現地本部要員の理解度が50%以下と非常に低い。	・ 訓練上の会議では、あらかじめ用意したものを使用したので、問題とはなかったが、実災害時に備えて実践力を養っておく必要がある。対策としては、②項に示した県としての図上訓練や実施方針案作成に特化した研修など、年度の訓練計画策定と、関係者の参加促進などが望まれる。

⑤ 資機材

用意されていた地図が古かった。

■改善すべき事項及び今後の対策■

改善すべき事項	今後の対策及び当該方法を推奨する根拠
● 用意されていた地図がH27年版と古く、最新の道路情報が反映されていなかった。	・ 災害対応は最新の情報に基づいて実施する必要があるため、マニュアル、地図等は、常に最新版を配備するよう規定するとともに、契約業者等に委託することが望まれる。

イ 県現地本部訓練

総括・広報チームが県現地本部の取りまとめを行うなど、全体的に各チームの役割分担が徐々に浸透してきていると考えられる。